

不祥事ゼロに向けた取組【一人一人が「自分事として考える」】 R6.7.22

(文責 大子町立生瀬中学校長 山本 一典)

学校は生徒にとって多くのことを学ぶ大切な場所です。そのため、生徒にとって安全・安心な場所ではなくてはなりません。私たち教職員は、教育活動は、生徒や保護者、地域の皆様の信頼のもと成り立つものと考えています。

しかし、日々の報道でもあるように教職員の不祥事が続いています。本校では、このことを他山の石とせず、すべての教職員が、不祥事を自分事として捉え、自分の行動が教育全体に影響することを強く意識し、不祥事ゼロに向けて行動していきます。

1 令和6年度コンプライアンス研修年間計画

月	内 容	月	内 容
4	全体研修会(服務規程)	9	体罰等に関する指導の面談
4	パーソナル面談 ・校長が、職員一人一人と面談	10	ミニ研修 ※ミドルリーダー主催
6	飲酒に関する面談 ・校長が、職員一人一人と面談	11	全体研修会
7	ミニ研修 ※ミドルリーダー主催	12	ミニ研修 ※ミドルリーダー主催
7	臨時コンプライアンス集会 ・盗撮事案	1	全体研修会
		随時	コンプライアンス通信の発行 S Cと職員の面談

2 コンプライアンス研修の様子



3 研修資料

- ・校内コンプライアンス推進委員作成の研修資料
- ・One IBARAKI 第10、11、12、13、14、15号

4 教職員の意見等

- 不祥事がない原因として
 - ・コンプライアンス意識の甘さ(馴れ合い、これくらいなら大丈夫という気持ち等)がいけない。
 - ・心身の疲弊(注意力散漫、プレッシャーに対する反動等)からきている。
 - ・環境の乱れ(言語環境や整理整頓の乱れ等)から不祥事を誘発している。
 - ・他人事として捉える人間関係がいけないと思う。

5 対策内容

- 複数の目で見ると、対応する体制の構築する
 - ・1対1で指導する場面を作らないで複数の先生で見ると、関わる体制(学年チーム担任制や少人数指導)を継続する。
 - ・子どもたちや外部の人など、いろいろな人の目がある環境づくりに努める。
- 日常の点検体制、環境整備を確立する
 - ・カメラが設置されているかもしれないという意識をもって点検する。
 - ・隠し場所や死角を作らない環境づくりに努める。
- 相談体制を確立する
 - ・風通しのよい職場環境の構築する。
 - ・気軽に相談しやすい人間関係づくりを構築する。